

ほとけの 混和会だより

平成三十年九月

東光院

仏の混和会

第136号



赤城山 覚満淵

色即是空 空即是色、心のリセット

七月一七日 赤城山登頂

最近では登山がブームに成って居るようであります。

その目的は山ガールと言われるファッションを楽しむ登山や、精神を重視する登山などと様々に登って見ても山を求め、皆さんの心境にほんの少し触れる事が出来たような思いでした。昨今のグローバル化による競争激化の現代社会に於いては、

一つのことによりゆっくりと時間を掛けて取り組むことが許されず、複数の仕事を効率的にこなすマルチタスクな生き方が必然的に望まれるようになってしまいました。よって人々は一つの仕事をしながら別の仕事の心配をし、スマホのメールをチェックをしながら前と成って、何時も大量の情報に追われ自己を見失った状態に居るように思われるのです。

このように何かをしながら別のことが気になってしまいう状態のことを「マインドワンダリング」と言い、人はこの時幸福感が下がり、ただ目の前のことに集中してしまっている時に「マインドフルネス」幸福感が上がるそうです。私も一つの仕事をしながら他の事を考えてしまいう「マインドワンダリング」状態だったのです。そこで「そうだ明日、山に登ってみよう」と以前登った赤城山に突然登ってみようと思いついたのでした。

普段着ないちよつと派手なシャツで身をととのえ午前五時東光院を出発、午前八時赤城山は快く私を出迎えて下さり、覚満淵や地蔵岳、そして長七郎山と「マインドフルネス」に幸福感に満たされました。



地蔵岳中腹より大沼を望む

大自然の導きに抱かれる安心

『山岳信仰』

古来より人々は山を修行の道場とし信仰の対象として崇め奉っており、

比叡山に高野山そして富士山も私達が仏に成る為の神聖な道場なのです。ですから行者さんは「ザンゲ、ザンゲ、六根清浄」と声を掛け合います。そこで私も少しでも仏心が得られるようにと願いを込め、心を無にして「ザンゲザンゲ六根清浄」と己の言語行動を慎み清らか思いを抱く事だけに専念して山に登って見たのです。すると大自然という仏様はすばらしい天候の元に雄大な解放感を授けて下さり心は晴れ晴れと大きな自信を抱く事が出来ました。正に御仏の導きを頂く事が出来ました。

「成仏」仏に成る

「仏に成る」と言うと、人々は「死」をイメージしてしまいが、
「仏」とは「ブツ」を漢字で「仏陀」と書きその仏だけを取って「仏」
仏様と言っております。
ですから仏とは「ブツ」の事ではありません。

このブツとは大自然の営み、
この真理に目覚めたいなる慈愛心を抱き仏性に目覚めた人であり
ます。

「愛」とも響きの良い言葉です。しかし見返りを求めた愛は禍の元となってしまいます。

そこで無条件の愛を仏教では「慈悲」とか「慈愛」と言っております。この慈愛心の完成された人を「仏様」又は仏様のような人などと言っております。

この慈愛心に目覚めた時、己自身も大いなる喜びを得る事が出来ます。

しかし、なかなか簡単ではありません。何が妨げと成って居るかと言うと、私達は皆「自我」要するに己への捕らわれ「我」を持って居ます。

この自我を捨てる事が出来れば少しづつながらも仏の境地に近づける事が出来ます。

よって登山の際には「懺悔、懺悔、六根清浄」と己の我を滅し、身を慎みながら仏の道を歩んだのです。
亮観拜



日本仏教に登場する仏様を、毎号少しずつご紹介。今回は如来部の大日如来を紹介いたします。

● 如来部 大日如来

大日如来は「密教」という教えの仏様で、宇宙そのもの、宇宙の真理とされる仏様。全ての仏は大日如来の仮の姿であるとされ、全ての仏を統べる存在と言うことから王冠を被り、煌びやかな装飾品を身に纏っています。

「大日」とは「偉大な太陽」と言う意味で、太陽のように全世界、全宇宙に智慧の光（教え）を照らし説かれていた仏様です。

日本には、弘法大師空海が密教を中国から伝えた時に一緒に伝わったとされています。また、真言宗では密教を主体としているため、大日如来は真言宗の御本尊となっておりま

す。大日如来の説く密教とは言葉で表現することが難しい物で、その世界間を見て学ぶために表した物を「曼荼羅」と言います。中心に大日如来が描かれ、その周りを囲うように仏様がびっしりと描かれた物です。

大日如来の説く密教の曼荼羅に

は二種類あり、大いなる仏の宇宙を表す「金剛界曼荼羅」と、私たちの心の中にある仏の宇宙を描いた「胎藏界曼荼羅」があります。

金剛界では悟りを開くために必要な智慧を象徴する大日如来が、胎藏界では無限の慈悲の広がり象徴する大日如来が世界の中心に一人ずつ描かれております。

そのどちらの世界にも描かれる大日如来、象徴となる物が違うため、姿も少し異なっています。見分け方は手の形で、胸の前で左手の人差し指を立て、右手で包み込む、忍者のような仕草をしているのが金剛界の大日如来。お腹の前で両手を重ねる座禅をするときの形をしているのが胎藏界の大日如来です。

おまけ
その昔、富士山を護る神は大日如来であるとする信仰があり、かつて富士山山頂には「大日寺」というお寺があったようです。 亮澄拝



大阪府 金剛寺
国宝 大日如来坐像

行施わ餓れ鬼ま法し要たが



暦の上では秋を迎え、夜には秋の虫の音が聞こえるようになりましたが、日中はまだまだ残暑厳しく、油断の出来ない日々が続いております。

さて東光院では、去る十六日に盂蘭盆法要が、二二日には施餓鬼法要が行われました。特に施餓鬼法要は年に一度の大きな法要で、近隣部内の住職を招き厳修致します。そもそも施餓鬼とは布施の一環であり、檀信徒の皆様が施主となって餓鬼や有無両縁の諸霊に水や飲食（おんじき）を施して供養し、三界萬霊・過去精霊すべての成仏を願う法会です。そしてその善行功德をご先祖さまの菩提へと回向していくのです。

また、餓鬼とは必ずしも自己の外に潜むものではなく、むさぼりの心に捉われがちな自心の象徴とも



いわております。心に潜む餓鬼を見つめることは慈悲心を養うことへと通じてゆくものだと思っております。

お盆を終えて

今年のお盆も多くのお宅にお参りに伺わせていただきましたが、つくづく感じるのが一年がとても早いという事です。振り返ってみれば確かに様々な記憶が存在するのですが、一年のサイクルに慣れてしまったせいか、一つ一つの事象が驚くべき早さで過去に遠ざかっていき、あっという間に一周して、やがて今年の出来事なのか去年の事なのか曖昧になってゆくのです。ともあれ、人との出会いのは私の一つの楽しみでもあり、毎度優しく迎えて下さる皆様を支えられて生きているのだと実感する季節となりました。 亮敬拝

深大寺がテレビで紹介されます

九月一七日のNHKお昼の生放送番組に深大寺が取り上げられる予定となっております。ご覧頂き、お参りのきっかけにしたいだければ幸いです。

